

### 第3章 新入生および保護者調査の結果—奨学金・学生寮に関するクロス集計—

第3章では、新入生436名、新入生の保護者427名に対する調査結果について報告する。

#### (1) 問題・目的

本章では、新入生および保護者を対象とした調査の中から、奨学金制度および学生寮に関する調査項目を中心に、それぞれの現状を明らかにし、主に昨年度の結果と比較しながら、学生生活支援における今後の課題や展開を示唆することを目的とする。具体的には、以下の2点を明らかにする。

1. 新入生のうち、どのような学生が奨学金を認知しているのか、奨学金の受給経験があるのか、学生寮を認知しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

2. 保護者のうち、どのような保護者が奨学金を希望しているのか、学生寮への入寮を希望しているのかを明らかにし、本学の奨学金制度および学生寮の今後の課題や展開を示唆する。

#### (2) 奨学金に関する結果

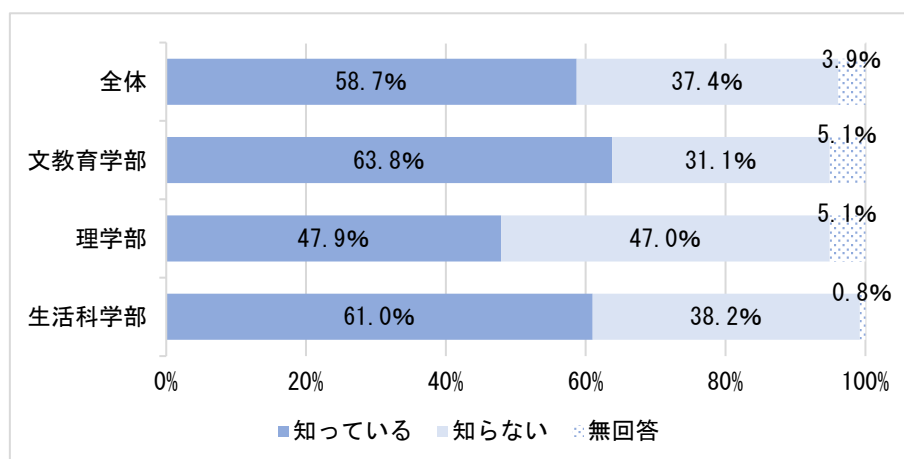
##### ① 新入生の結果

＜奨学金等制度の認知と受給経験＞

新入生の奨学金等制度の認知と受給経験について示したものが図表1-1～1-3である。

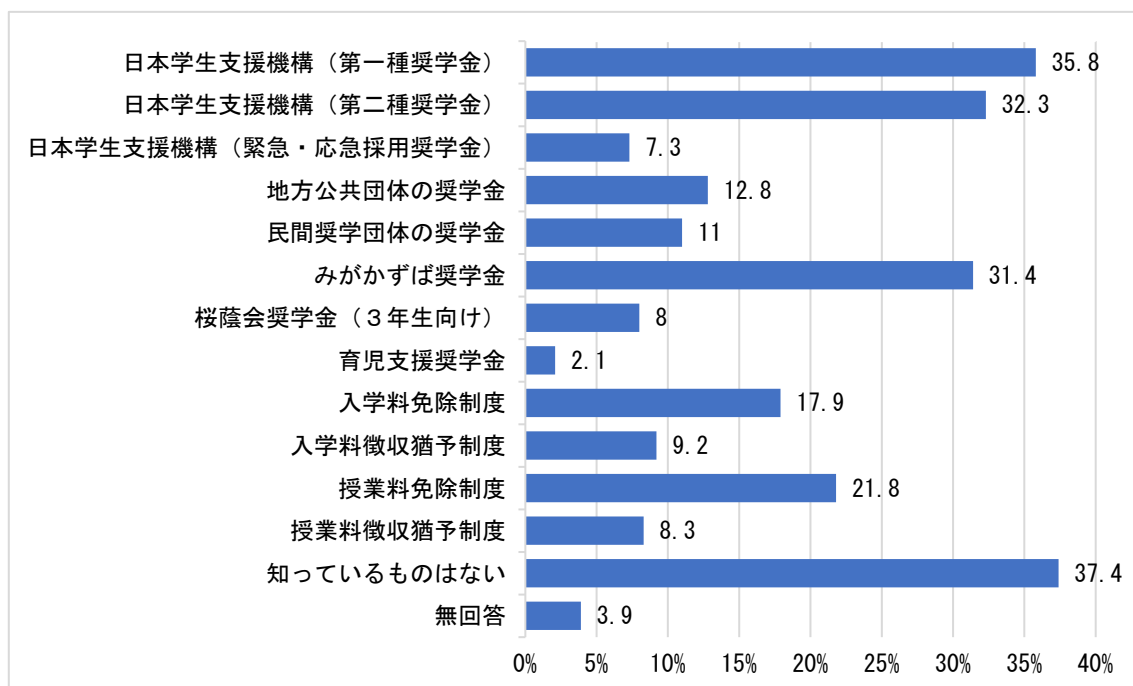
図表1-1は奨学金等制度の認知について、学部別に示している。奨学金等制度について、1つでも認知していれば「知っている」とした。

全体では58.7%の新入生が奨学金等制度について認知しており、昨年度の63.6%に比べ4.9%低下している。学部別にみると、理学部での認知度が最も低く47.9%であり、これは昨年度と同様の傾向である。



図表 1-1 学部別奨学金等制度の認知

図表1-2は、奨学金等制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。今年度最も認知度が高いものは、例年の「みがかずば奨学金」から日本学生支援機構の奨学金の第一種・第二種に変わり、それぞれ35.8%、32.3%である。それらに次いで、本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」が31.4%であり、昨年度の43.8%と比べ、12.4%低下した。また、「知っているものはない」が37.4%で、一昨年度の27.9%、昨年度の30.8%に続き上昇傾向である。



図表 1-2 奨学金等制度の認知

図表1-3は、これまで受けたことのある奨学金等制度について、複数回答可として尋ねた結果である。昨年度の1、2位は「特待生」3.1%、「学費免除」2.6%であったのに対し、今年度は「特待生」が3.9%に上昇し依然最も多く、「日本学生支援機構」が2.8%と第2位になった。ほかの奨学金等制度の受給経験は昨年度同様1～2%程度の割合を示している。

図表 1-3 制度別奨学金・学費免除等制度の受給経験

奨学金等制度名称	日本学生支援機構	地方公共団体	学校独自	民間奨学団体	新聞社	その他	学費免除	特待生
受けたことがある	2.8%	2.1%	1.6%	1.6%	0.0%	0.9%	2.3%	3.9%

#### <奨学金等制度の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような学生が奨学金等制度を認知しているのかを明らかにするため、「奨学金の認知」と各項目のクロス表を作成し、カイ二乗検定を行った。「奨学金の認知」は、それぞれの選択肢の中で一つでも認知していれば「知っている」として分析した。結果を図表1-4～1-9に示す。

図表1-4は「きょうだい数」と「奨学金認知」のクロス表である。きょうだい数と奨学金認知については昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 1-4 きょうだい数と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	49	26	75
		%	65.3%	34.7%	100.0%
	2人きょうだい	度数	154	101	255
		%	60.4%	39.6%	100.0%
	3人以上	度数	70	36	106
		%	66.0%	34.0%	100.0%
合計		度数	273	163	436
		%	62.6%	37.4%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表1-5は「出身高校設置者」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度は出身高校の設置者と奨学金の認知について有意な関連が見られたが、今年度は見られなかった。

図表 1-5 出身高校設置者と奨学金認知の クロス表

			奨学金認知		合計	
			知っている	知らない		
出身高校設置者	公立	度数	156	93	249	
		%	62.7%	37.3%	100.0%	
	私立	度数	96	61	157	
		%	61.1%	38.9%	100.0%	
	国立	度数	16	5	21	
		%	76.2%	23.8%	100.0%	
	海外	度数	4	4	8	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	合計		度数	273	163	436
			%	62.6%	37.4%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 1-6 は「奨学金受給経験」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金の受給経験がある場合には、奨学金等制度についても認知している割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 1-6 奨学金受給経験と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	228	156	384
		%	59.4%	40.6%	100.0%
	経験あり	度数	47	7	54
		%	87.0%	13.0%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 1-7 は「入学後の予定住居」と「奨学金認知」のクロス表である。奨学金等制度について、入学後に予定している住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）の新入生のほうが認知の割合が高く、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-7 入学後の予定住居と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の予定住居	実家以外	度数	124	47	171
		%	72.5%	27.5%	100.0%
	実家	度数	151	116	267
		%	56.6%	43.4%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 1-8 は「仕送り額」と「奨学金認知」のクロス表である。図表 1-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、学生寮）」と回答した新入生の仕送り額を示している。仕送り額と奨学金認知との間に有意な関連は見られなかった。昨年度までは大体仕送り額が高いほど奨学金の認知率が下がる傾向が見られたが、今年度は仕送り額が5万円未満である場合の奨学金認知率が一番高く、仕送りがない場合もしくは5万円以上の場合の奨学金認知率がほぼ同じぐらい比較的に低かった。

図表 1-8 仕送り額と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
仕送り額	仕送りなし	度数	13	6	19
		%	68.4%	31.6%	100.0%
	5万円未満	度数	16	3	19
		%	84.2%	15.8%	100.0%
	5万円以上10万円未満	度数	36	16	52
		%	69.2%	30.8%	100.0%
	10万円以上	度数	47	21	68
		%	69.1%	30.9%	100.0%
合計		度数	112	46	158
		%	70.9%	29.1%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 1-9 は「学生寮認知」と「奨学金認知」のクロス表である。昨年度と同様に、学生寮について認知している場合は、奨学金等制度についても認知している割合が高い結果であり、昨年度同様有意な関連が見られた。

図表 1-9 学生寮認知と奨学金認知 のクロス表

			奨学金認知		合計
			知っている	知らない	
学生寮認知	知っている	度数	229	95	324
		%	70.7%	29.3%	100.0%
	知らない	度数	46	68	114
		%	40.4%	59.6%	100.0%
合計		度数	275	163	438
		%	62.8%	37.2%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

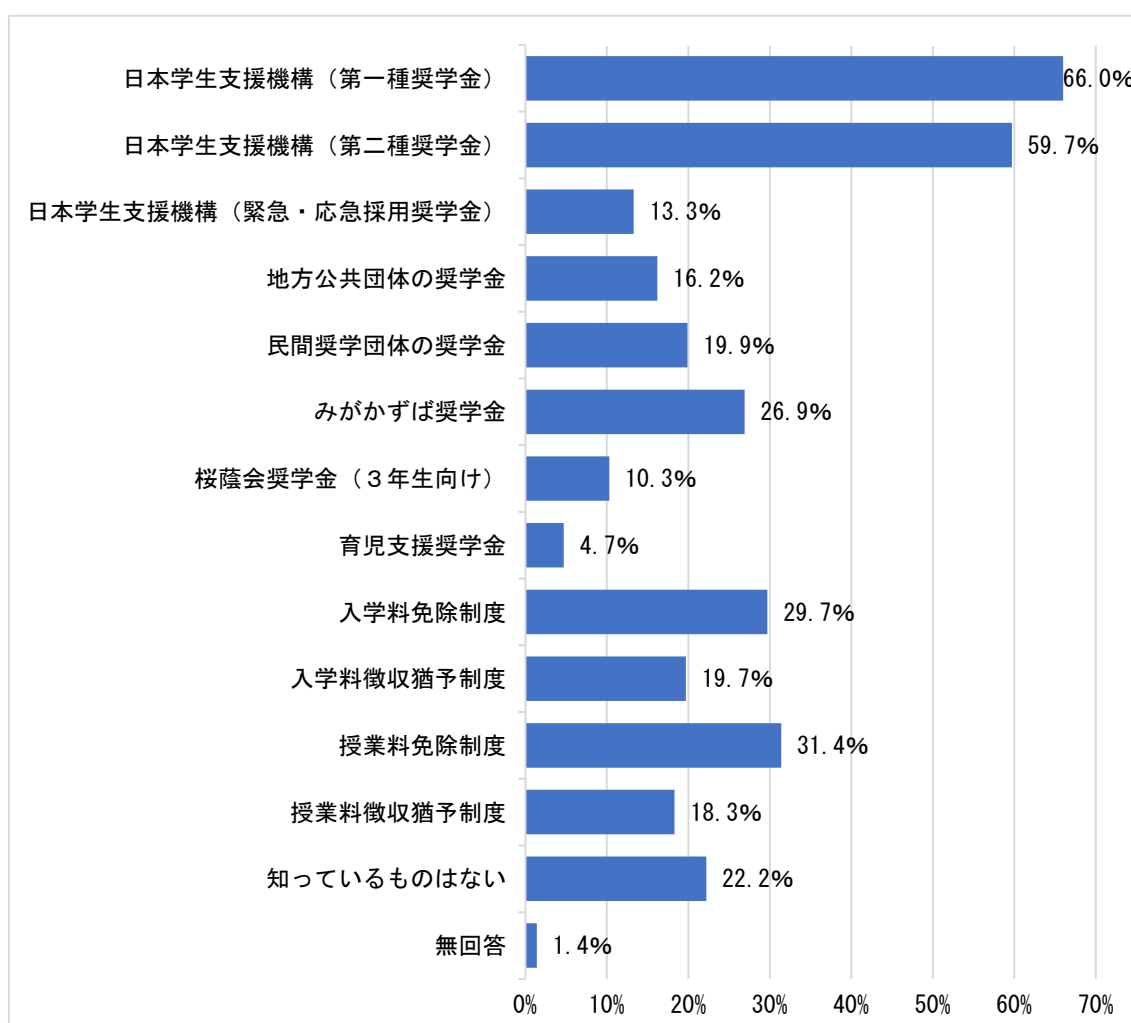
## ② 保護者の結果

### <奨学金等制度の認知・受給経験・利用希望>

保護者票の奨学金等制度の認知、利用希望について示したものが図表 2-1～2-2 である。

図表2-1は、保護者の奨学金・学費免除等の制度の認知について、本学独自の制度も含め複数回答可として尋ねた結果である。

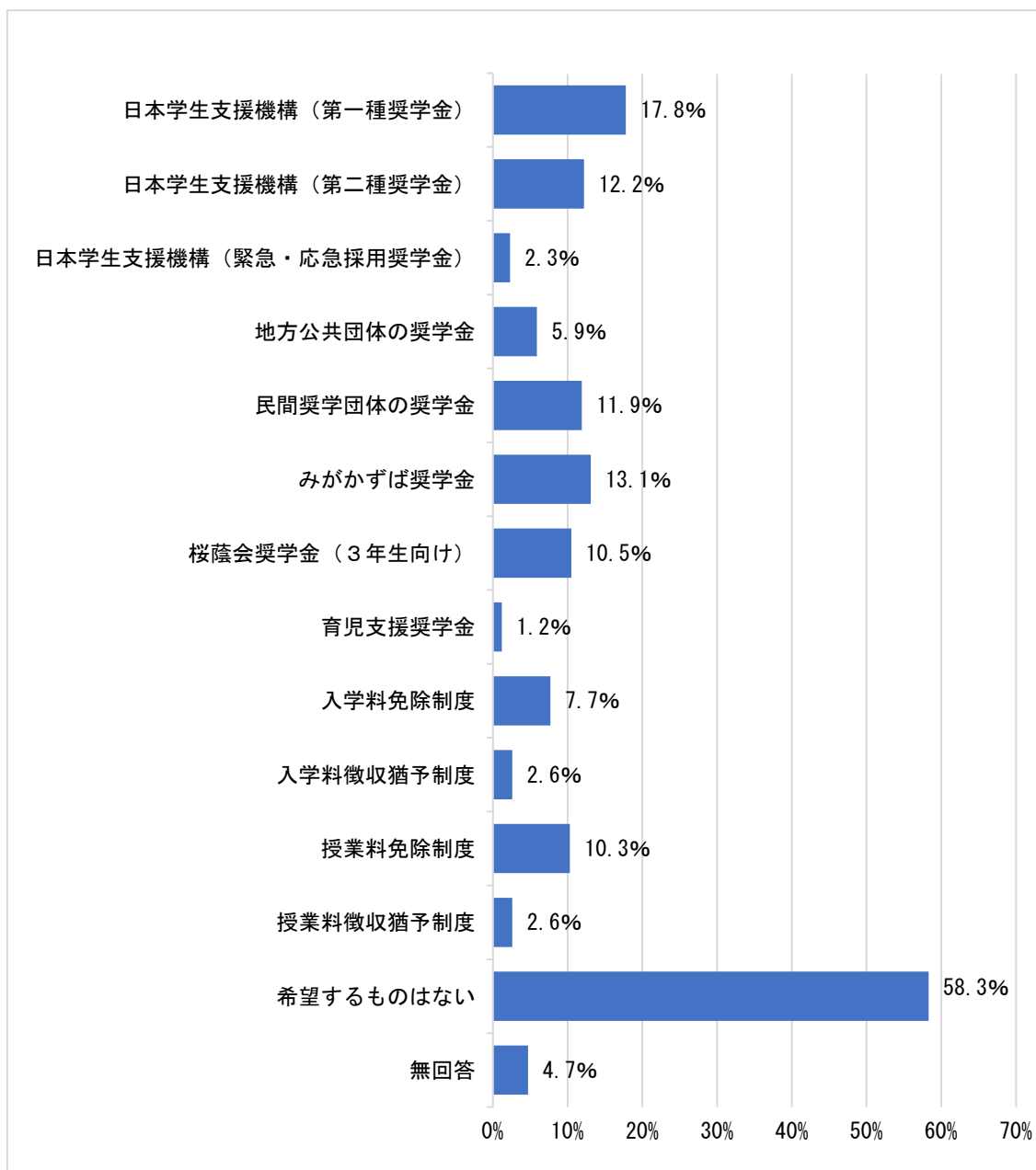
奨学金制度に関しては、最も認知率が高いのは日本学生支援機構第一種の66.0%であり、第二種が59.7%と続く。本学のみがかずば奨学金の認知率は、26.9%と昨年度に比べ5.1%低下している。ただ、「民間奨学団体の奨学金」、「桜蔭会奨学金（3年生向け）」、「育児支援奨学金」、入学料や授業料の免除制度、入学料や授業料の徴収猶予制度の認知率は昨年度に比べ上昇している。



図表 2-1 保護者の奨学金等制度の認知度

図表 2-2 では大学入学後の奨学金等制度利用希望について、複数回答可として尋ねた結果である。日本学生支援機構（第一種奨学金）は昨年度同様もっとも利用希望率が高かった。本学独自の奨学金である「みがかずば奨学金」は平成 30 年から利用希望率が減少していたが、4 年ぶりに 2 位に上昇した。日本学生支援機構（第二種奨学金）と「民間奨学団体の奨学金」は昨年度の第 2 位、第 3 位からそれぞれ第 3 位、第 4 位に低下している。

また、「希望するものはない」と回答した割合が 58.3%であり、昨年と比べ 0.3%増えている。



図表 2-2 奨学金等制度の利用希望

<奨学金希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が奨学金等制度の利用を希望しているか明らかにするため、「奨学金の希望」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれの結果を図表 2-3～2-11 に示す。

図表 2-3 は「家計支持者」と「奨学金希望」のクロス表である。家計支持者が母親である場合や、父・母・入学予定者本人のいずれでもない場合、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 2-3 家計支持者と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父	度数	140	235	375
		%	37.3%	62.7%	100.0%
	母	度数	34	11	45
		%	75.6%	24.4%	100.0%
	入学予定者本人	度数	3	3	6
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	その他	度数	12	0	12
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	合計	度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 2-4 は、「父親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。父親が「無職」や「いない」の場合、奨学金を希望する割合が高く、昨年度同様統計的に有意な関連が見られた。

図表 2-4 父親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	138	226	364
		%	37.9%	62.1%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営	度数	11	15	26
		%	42.3%	57.7%	100.0%
	無職	度数	4	2	6
		%	66.7%	33.3%	100.0%
	いない	度数	20	6	26
		%	76.9%	23.1%	100.0%
	不明	度数	4	0	4
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	合計	度数	178	249	427
		%	41.7%	58.3%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)



図表 2-5 は、「母親の就労形態」と「奨学金の希望」のクロス表である。昨年度と同じような傾向が見られ、有職母親の就労形態は「フルタイム」、「パートタイム」、「自営」それぞれであるが、奨学金の希望率には大きな差はない。ただし、「母親の就労形態」と「奨学金希望」との間には昨年度同様有意な関連が見られなかった。

図表 2-5 母親の就労形態と奨学金希望 のクロス表

		奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
母親の 就労形態	フルタイム勤務	度数	61	80	141	
		%	43.3%	56.7%	100.0%	
	パートタイム勤務	度数	69	94	163	
		%	42.3%	57.7%	100.0%	
	自営	度数	7	16	23	
		%	30.4%	69.6%	100.0%	
	無職	度数	37	56	93	
		%	39.8%	60.2%	100.0%	
	いない	度数	2	2	4	
		%	50.0%	50.0%	100.0%	
	不明	度数	2	1	3	
		%	66.7%	33.3%	100.0%	
	合計		度数	140	178	427
			%	39.1%	41.7%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表2-6は「入学後の暮らし向き」と「奨学金希望」のクロス表である。昨年度同様、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合には奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表2-6 入学後の暮らし向きと奨学金希望 のクロス表

		保護者の奨学金希望		合計	
		希望する	希望しない		
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	137	89	226
		%	60.6%	39.4%	100.0%
	ゆとりがある	度数	40	155	195
		%	20.5%	79.5%	100.0%
	不明	度数	12	5	17
		%	70.6%	29.4%	100.0%
合計		度数	189	249	351
		%	43.2%	56.8%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表2-7は「世帯年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢を合算してクロス表を作成した。2019年度以来同じ傾向で、世帯年収が800万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が800万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、有意な関連が見られた。

図表 2-7 世帯年収と保護者の奨学金希望 のクロス表

		保護者の奨学金希望		合計		
		希望する	希望しない			
世帯年収	400万円未満	度数	28	3	31	
		%	90.3%	9.7%	100.0%	
	400万円以上600万円未満	度数	20	3	23	
		%	87.0%	13.0%	100.0%	
	600万円以上800万円未満	度数	46	22	68	
		%	67.6%	32.4%	100.0%	
	800万円以上1000万円未満	度数	27	52	79	
		%	34.2%	65.8%	100.0%	
	1000万円以上1200万円未満	度数	23	59	82	
		%	28.0%	72.0%	100.0%	
	1200万円以上	度数	32	104	136	
		%	23.5%	76.5%	100.0%	
	合計		度数	176	243	419
			%	42.0%	58.0%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p < .000$ , \*\* $p < .01$ , \* $p < .05$ , n.s. (not significant)

図表2-8は「家計支持者年収」と「奨学金希望」のクロス表である。「1200万円以上」の選択肢は合算してクロス表を作成した。家計支持者の年収が600万円未満の場合には奨学金を希望する割合が高く、家計支持者の年収が600万円以上の場合には奨学金を希望する割合が低く、有意な関連が見られた。2017年度からの分水嶺が800万円だったのに対し、今年度は600万円に低下し、やや異なる結果を見せている。

図表 2-8 家計支持者年収と奨学金希望 のクロス表

			奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	40	4	44
		%	90.9%	9.1%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	31	12	43
		%	72.1%	27.9%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	38	48	86
		%	44.2%	55.8%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	33	64	97
		%	34.0%	66.0%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	20	55	75
		%	26.7%	73.3%	100.0%
	1200万円以上	度数	15	61	76
		%	19.7%	80.3%	100.0%
合計		度数	177	244	421
		%	42.0%	58.0%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表2-9は「本人の奨学金受給経験」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。これまでに奨学金受給経験がある場合には奨学金を希望する割合が高いことが示された。これは従来と同様の結果で、両者の間には有意な関連が見られた。

図表 2-9 奨学金受給経験と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
本人の奨学金受給経験	経験なし	度数	153	231	384
		%	39.8%	60.2%	100.0%
	経験あり	度数	36	18	54
		%	66.7%	33.3%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 2-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を知っている場合、奨学金を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。これは従来と同様の結果である。

図表 2-10 学生寮認知と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	163	148	311
		%	52.4%	47.6%	100.0%
	知らない	度数	26	101	127
		%	20.5%	79.5%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表2-11は「保護者の学生寮希望」と「保護者の奨学金希望」のクロス表である。学生寮を希望している場合、奨学金を希望する割合が高いことが示され、有意な関連が見られた。これは従来と同様の傾向である。

図表 2-11 学生寮希望と奨学金希望 のクロス表

			保護者の奨学金希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮希望	希望する	度数	114	70	184
		%	62.0%	38.0%	100.0%
	希望しない	度数	75	179	254
		%	29.5%	70.5%	100.0%
合計		度数	189	249	438
		%	43.2%	56.8%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

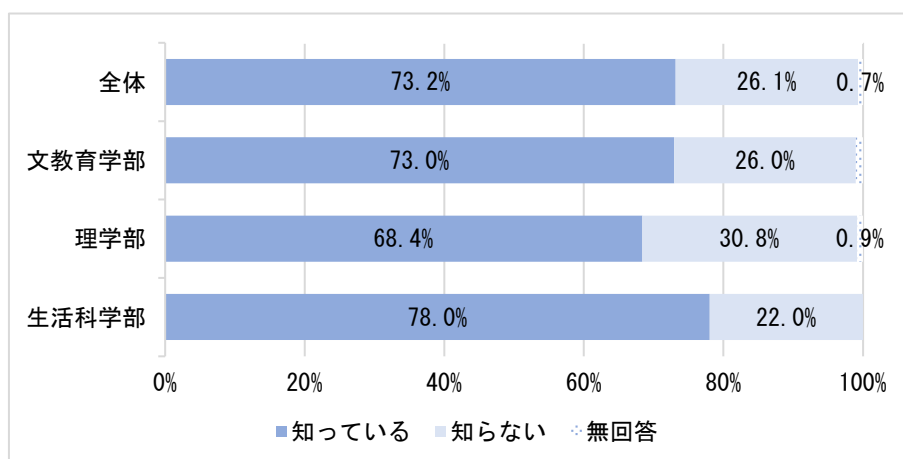
### (3) 学生寮に関する結果

#### ① 新入生の結果

＜学生寮の認知＞

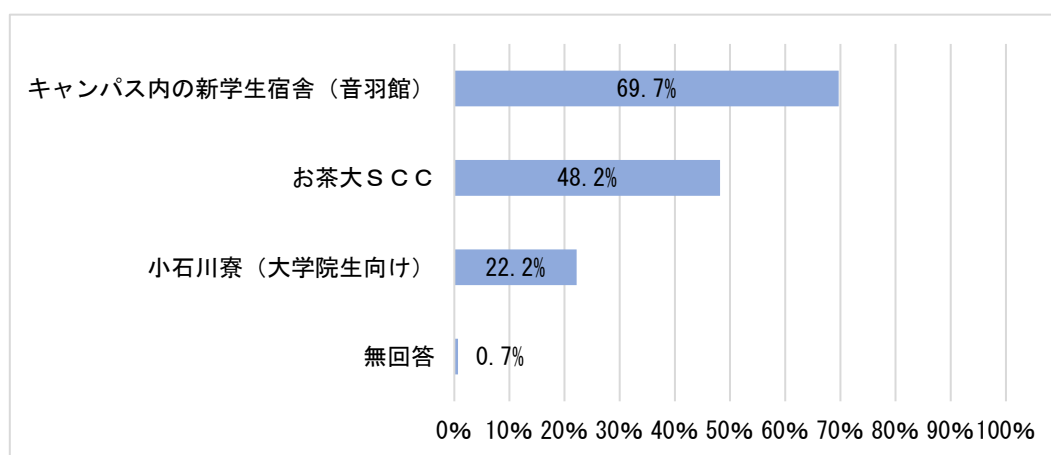
図表3-1は本学の学生寮の認知について、複数回答可として尋ね、学部別に集計した結果である。1つでも認知している学生寮があれば「知っている」とした。全体では73.2%の新入生が学生寮について認知しており、平成29年度以来の最高値に達している。

学部別にみると、理学部が他学部に比べて低い結果となっており、これは従来と同様の結果である。ただ、一昨年度までは40%台であった理学部の認知率が、昨年度は51.0%に、今年度は68.4%に上昇したのは大きな変化であろう。



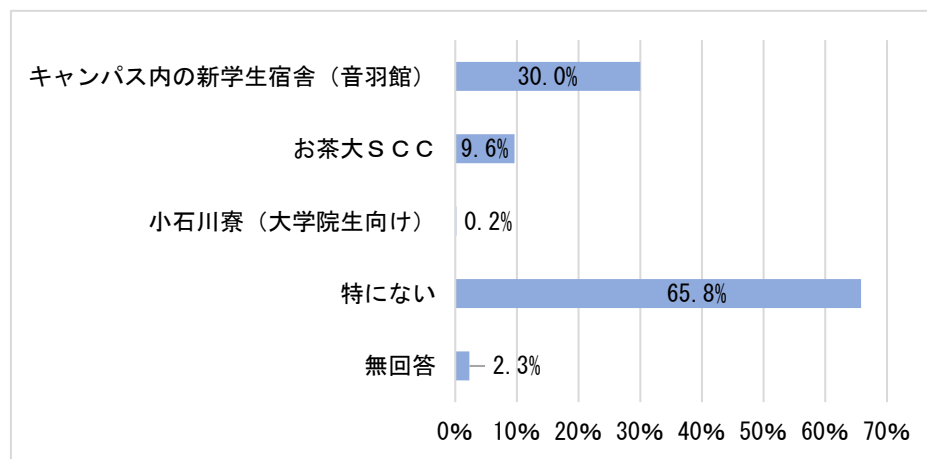
図表 3-1 本学の学生寮に対する認知（学部別）

図表 3-2 では本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ね、寮の種類別に集計した結果である。本学にはキャンパス内の新学生宿舎である音羽館、教育寮であるお茶大 SCC（学部1・2年生対象）、自治寮である小石川寮（大学院生対象）の3つの学生寮がある。認知率は、音羽館が69.7%と最も高く、次いでお茶大 SCCが48.2%、小石川寮が22.2%であった。昨年度の認知率と比較すると、お茶大 SCCは57.7%から9.5%低下し、小石川寮は30.5%から8.3%低下している。



図表 3-2 本学の学生寮に対する認知（寮別）

入寮を希望する学生寮を複数回答可として尋ねた結果が図表 3-3 である。希望する学生寮を「特  
にない」と回答した新入生が最も多く 65.8%であり、昨年度の 79.5%からは 13.7%低下した。音羽  
館を希望する学生は 30.0%で、お茶大 SCC を希望する学生は 9.6%、小石川寮は 0.2%であった。昨  
年度の希望率と比較すると、お茶大 SCC は 0.9%低下し、小石川寮は 1.1%低下した。



図表 3-3 本学の学生寮への入寮希望 (寮別)

#### <学生寮の認知と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような新入生が本学の学生寮について認知しているか明らかにするため、「学生寮の  
認知」と各項目とのクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 3-4~3-8 に示す。「学生寮の認知」  
は、本学の学生寮のうち、1つでも知っているものがあれば「知っている」とした。

図表3-4では「きょうだい数」と「学生寮認知」のクロス表である。きょうだい数と学生寮認知と  
の間には有意な関連は見られなかった。これは昨年度と同様の結果である。

図表 3-4 きょうだい数と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
きょうだい数	1人っ子	度数	56	19	75
		%	74.7%	25.3%	100.0%
	2人きょうだい	度数	191	64	255
		%	74.9%	25.1%	100.0%
	3人以上	度数	75	31	106
		%	70.8%	29.2%	100.0%
合計		度数	322	114	436
		%	73.9%	26.1%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表3-5は「出身高校設置者」と「学生寮認知」のクロス表である。「出身高校設置者」と「学生  
寮認知」との間には昨年度同様有意関連は見られなかった。

図表 3-5 出身高校設置者と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
出身高校設置者	公立	度数	193	56	249
		%	77.5%	22.5%	100.0%
	私立	度数	106	51	157
		%	67.5%	32.5%	100.0%
	国立	度数	15	6	21
		%	71.4%	28.6%	100.0%
	海外	度数	7	1	8
		%	87.5%	12.5%	100.0%
	不明	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
合計		度数	322	114	436
		%	73.9%	26.1%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 3-6 は「奨学金受給経験」と「学生寮の認知」のクロス表である。「奨学金受給経験」と「学生寮認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-6 奨学金受給経験と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
奨学金受給経験	経験なし	度数	285	99	384
		%	74.2%	25.8%	100.0%
	経験あり	度数	39	15	54
		%	72.2%	27.8%	100.0%
合計		度数	324	114	438
		%	74.0%	26.0%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表3-7では「入学後の予定住居」と「学生寮認知」のクロス表である。入学後の住居が実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）の場合には、学生寮について認知している割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 3-7 居住予定の住居と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計
			知っている	知らない	
入学後の居住予定	実家以外	度数	159	12	171
		%	93.0%	7.0%	100.0%
	実家	度数	165	102	267
		%	61.8%	38.2%	100.0%
合計		度数	324	114	438
		%	74.0%	26.0%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 3-8 は「仕送り額」と「学生寮の認知」のクロス表である。図表 3-8 での「仕送り額」は、入学後の予定住居を「実家以外（賃貸マンション・アパート、寮など）」と回答した新入生の仕送り額を示している。「仕送り額」と「学生寮の認知」の間には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 3-8 仕送り額と学生寮認知 のクロス表

			学生寮認知		合計	
			知っている	知らない		
仕送り額	仕送りなし	度数	18	1	19	
		%	94.7%	5.3%	100.0%	
	5万円未満	度数	17	2	19	
		%	89.5%	10.5%	100.0%	
	5万円以上10万円未満	度数	45	7	52	
		%	86.5%	13.5%	100.0%	
	10万円以上	度数	66	2	68	
		%	97.1%	2.9%	100.0%	
	合計		度数	146	12	158
			%	92.4%	7.6%	100.0%

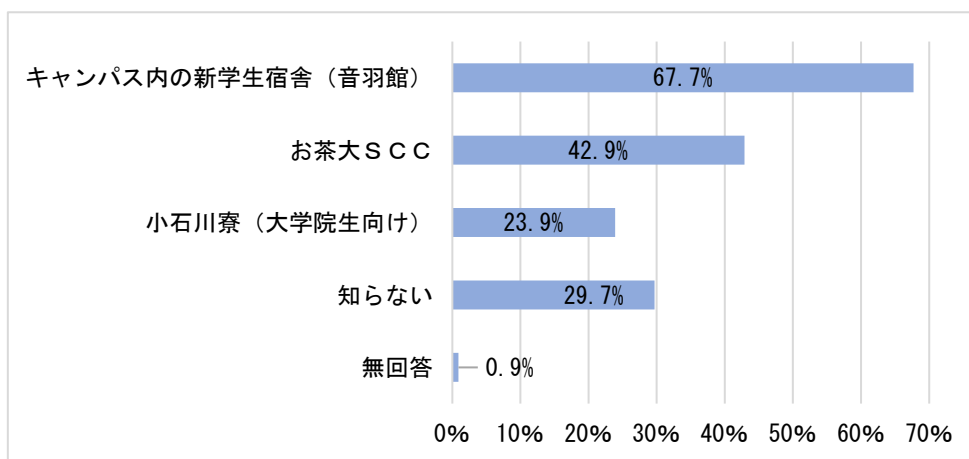
n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)



## ② 保護者の結果

### <学生寮の認知と利用希望>

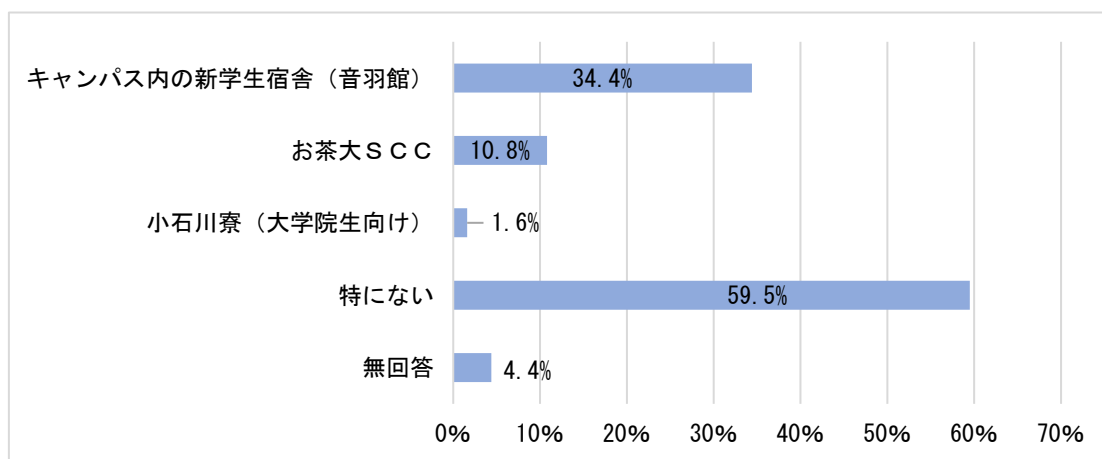
図表 4-1 では、新入生の保護者に本学の学生寮に対する認知を複数回答可として尋ねた結果である。認知率が最も高かったのは、音羽館で 67.7%である。次いでお茶大 SCC が 42.9%、小石川寮が 23.9%であるが、昨年度に比べ、それぞれ 8.8%、2.3%減少している。「知らない」と回答した割合は 29.7%で、昨年度の 44.9%から大幅に下がった。



図表 4-1 保護者の学生寮認知

図表 4-2 は、本学の学生寮への入寮希望について複数回答可として尋ねた結果である。

音羽館への入寮希望が 34.4%、次いでお茶大 SCC が 10.8%、小石川寮が 1.6%であり、入寮希望について「特にない」が 59.5%であった。昨年度の入寮希望率と比べて見ると、国際学生宿舎 18.1%に代わり、音羽館が 34.4%となっている。また、「特にない」は 75.6%から 59.5%へと低下したことより、全体的な入寮希望が増加したことが確認できる。一方で、お茶大 SCC と小石川寮はそれぞれ 3.9%、0.5%低下している。



図表 4-2 本学の学生寮への入寮希望

<学生寮入寮希望と属性などの項目とのクロス表>

次に、どのような保護者が学生寮への入寮を希望しているか明らかにするために「入寮希望」のクロス表を作成した。それぞれ結果を図表 4-3～4-10 に示す。

図表 4-3 では「家計支持者」と「入寮希望」のクロス表である。家計支持者が「その他」である場合、すなわち、入学者の両親や入学者本人でない場合に、保護者の入寮希望は最も高く、有意な関連が見られた。また、家計支持者が父親よりは入学者である場合、入学者よりは母親である場合に、保護者が学生寮を希望する割合が高い。

図表 4-3 家計支持者と入寮希望 のクロス表

			入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者	父親	度数	153	222	375
		%	22.2%	77.8%	100.0%
	母親	度数	18	27	45
		%	40.0%	60.0%	100.0%
	入学者	度数	2	4	6
		%	33.3%	66.7%	100.0%
	その他	度数	11	1	12
		%	91.7%	8.3%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 4-4 では「父親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。父親の就労形態が「フルタイム勤務」よりも、「パートタイム勤務」、「自営」などの場合には学生寮を希望する割合がやや高い傾向が見られた。ただし、「父親の就労形態」と「入寮希望」には昨年度同様有意な関連は見られなかった。

図表 4-4 父親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
父親の就労形態	フルタイム勤務	度数	148	216	364
		%	40.7%	59.3%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	1	0	1
		%	100.0%	0.0%	100.0%
	自営業	度数	8	18	26
		%	30.8%	69.2%	100.0%
	無職	度数	3	3	6
		%	50.0%	50.0%	100.0%
	いない	度数	11	15	26
		%	42.3%	57.7%	100.0%
合計		度数	171	252	423
		%	40.4%	59.6%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表4-5は「母親の就労形態」と「入寮希望」のクロス表である。母親の就労形態は「フルタイム勤務」、「パートタイム勤務」、「自営業」などそれぞれであるが、学生寮を希望する割合には大きな差がみられず、「母親の就労形態」と「入寮希望」との間にも有意な関連は昨年度同様見られなかった。

図表 4-5 母親の就労形態と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
母親の就労形態	フルタイム勤務	度数	58	83	141
		%	41.1%	58.9%	100.0%
	パートタイム勤務	度数	68	95	163
		%	41.7%	58.3%	100.0%
	自営業	度数	9	14	23
		%	39.1%	60.9%	100.0%
	無職	度数	34	59	93
		%	36.6%	63.4%	100.0%
	いない	度数	2	2	4
		%	50.0%	50.0%	100.0%
合計		度数	171	253	424
		%	40.3%	59.7%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 4-6 は「入学後の暮らし向き」と「入寮希望」のクロス表である。入学後の暮らし向きについて「ゆとりがない」と回答している場合、学生寮を希望する割合が高く、有意な関連が見られた。

図表 4-6 入学後の暮らし向きと入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
入学後の暮らし向き	ゆとりがない	度数	122	104	226
		%	54.0%	46.0%	100.0%
	ゆとりがある	度数	49	146	195
		%	25.1%	74.9%	100.0%
合計		度数	171	250	421
		%	40.6%	59.4%	100.0%

\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 4-7 は「世帯年収」と「入寮希望」のクロス表である。質問票では、世帯年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。

もっとも入寮希望率が高かったのは「400 万円以上 600 万円未満」の世帯年収のもので 52.2% であり、ついで「400 万円未満」の 48.4% であったが、有意な関連は見られなかった。

図表 4-7 世帯年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
世帯年収	400万円未満	度数	15	16	31
		%	48.4%	51.6%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	12	11	23
		%	52.2%	47.8%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	31	37	68
		%	45.6%	54.4%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	34	45	79
		%	43.0%	57.0%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	27	55	82
		%	32.9%	67.1%	100.0%
	1200万円以上	度数	51	85	136
		%	37.5%	62.5%	100.0%
合計		度数	170	249	419
		%	40.6%	59.4%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 4-8 は「家計支持者の年収」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。質問票では、家計支持者の年収に対して、400 万円未満から 1800 万円以上までを回答項目としていたが、「1200 万円以上」の回答数が少ないため「1200 万円以上 1400 万円未満」「1400 万円以上 1600 万円未満」「1600 万円以上 1800 万円未満」「1800 万円以上」は合算してクロス表を作成した。

家計支持者の年収が 400 万円から 1200 万円未満の場合、家計支持者の年収が高くなるほど、学生寮を希望する割合が低くなる傾向である。また、昨年度は家計支持者の年収と入寮希望との間に有意な関連が見られたが、今年度は有意な関連が見られなかった。

図表 4-8 家計支持者年収と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
家計支持者年収	400万円未満	度数	20	24	44
		%	45.5%	54.5%	100.0%
	400万円以上600万円未満	度数	21	22	43
		%	48.8%	51.2%	100.0%
	600万円以上800万円未満	度数	39	47	86
		%	45.3%	54.7%	100.0%
	800万円以上1000万円未満	度数	40	57	97
		%	41.2%	58.8%	100.0%
	1000万円以上1200万円未満	度数	22	53	75
		%	29.3%	70.7%	100.0%
	1200万円以上	度数	28	48	76
		%	36.8%	63.2%	100.0%
合計		度数	170	251	421
		%	40.4%	59.6%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表4-9は「学生の奨学金受給経験」と「保護者の入寮の希望」のクロス表である。今年度の調査でも昨年度同様に、奨学金の受給経験がある場合、学生寮を希望する割合が高い結果を示したが、さほど大きな差とは言えない。また、両者の間に有意な関連は見られなかった。

図表 4-9 奨学金受給経験と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
学生の奨学金受給経験	経験なし	度数	159	225	384
		%	41.4%	58.6%	100.0%
	経験あり	度数	25	29	54
		%	46.3%	53.7%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

n.s. 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

図表 4-10 は「保護者の学生寮認知」と「保護者の入寮希望」のクロス表である。学生寮について認知している場合には、学生寮を希望する割合が高く、昨年度同様に有意な関連がみられた。

図表 4-10 学生寮認知と入寮希望 のクロス表

			保護者の入寮希望		合計
			希望する	希望しない	
保護者の学生寮の認知	知っている	度数	180	131	311
		%	57.9%	42.1%	100.0%
	知らない	度数	4	123	127
		%	3.1%	96.9%	100.0%
合計		度数	184	254	438
		%	42.0%	58.0%	100.0%

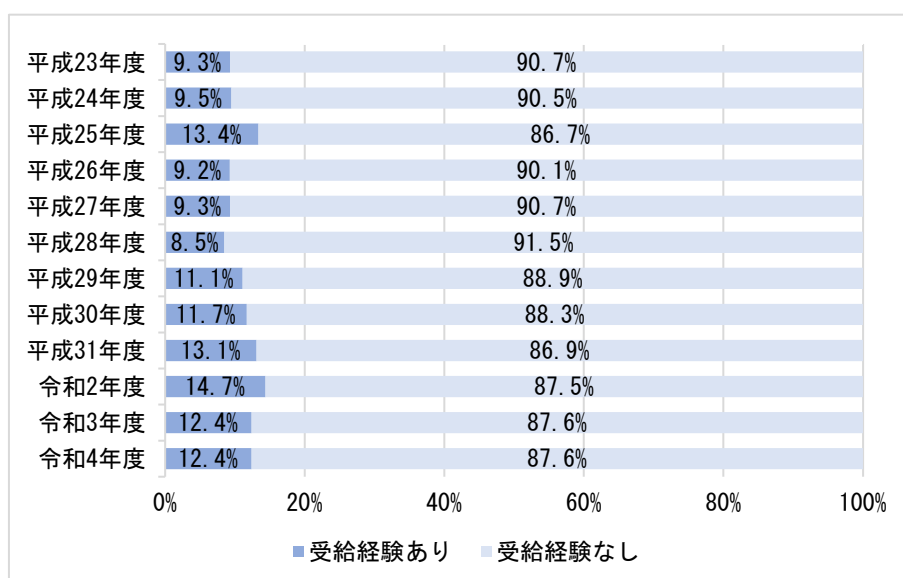
\*\*\* 注 \*\*\* $p<.000$ , \*\* $p<.01$ , \* $p<.05$ , n.s. (not significant)

#### (4) 奨学金と学生寮について、過年度との比較

##### ① 新入生

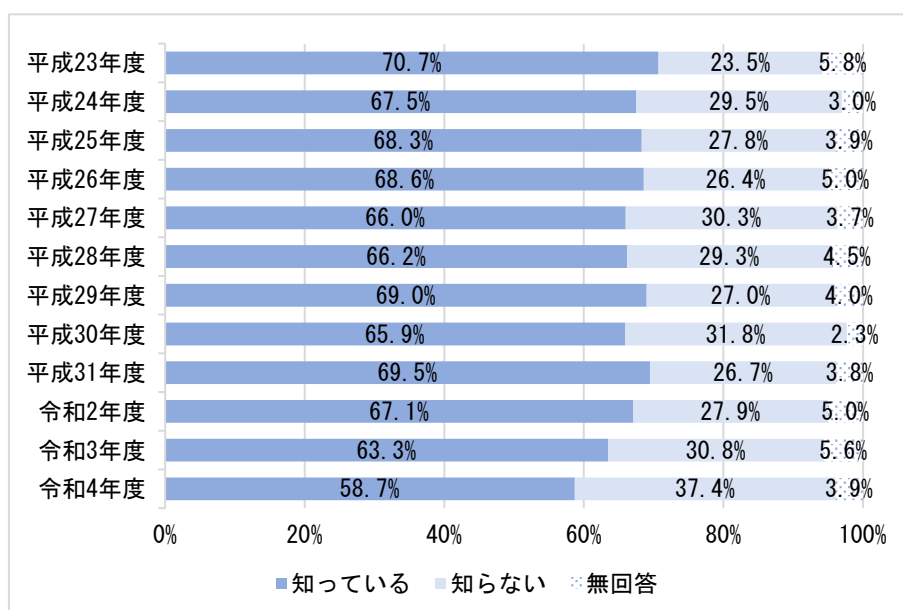
新入生の奨学金等制度受給経験、奨学金等制度の認知、学生寮の認知について過去 11 年間の結果と今年度の結果とを比較したものを図表 5-1～5-3 に示す。

図表 5-1 は新入生のこれまでの奨学金等制度の受給経験について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、奨学金受給経験が「ある」と回答した割合が 12.4%であり、昨年度と同じで、全 12 年間の結果の中で 4 番目に高い割合である。



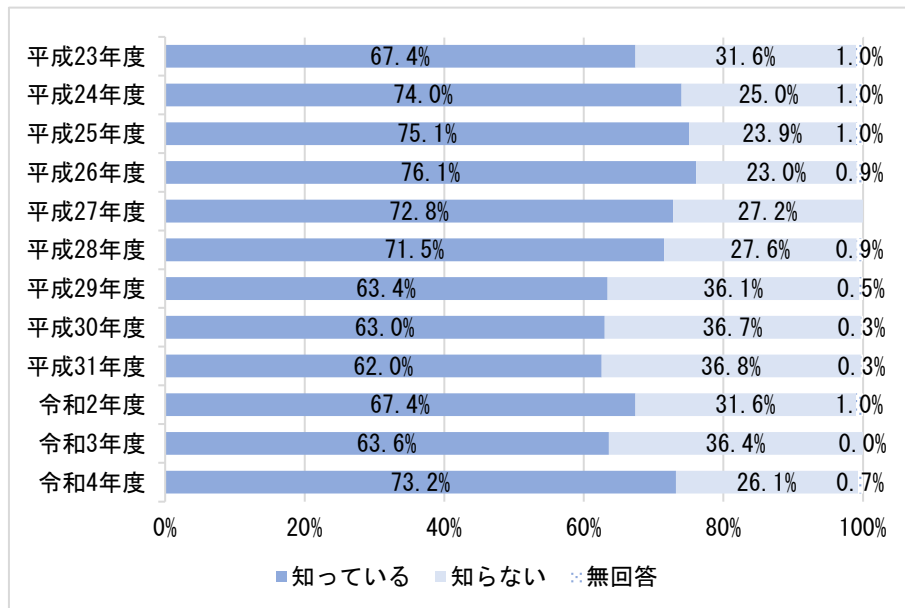
図表 5-1 新入生の奨学金等制度受給経験 過年度比較

図表 5-2 は新入生の奨学金等制度の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の調査において、奨学金等制度について認知している割合は、「知っている」が 58.7%であり、全 12 年間の結果において、最も低い割合を示している。



図表 5-2 新入生の奨学金等制度の認知 過年度比較

図表 5-3 は新入生の学生寮の認知について、過去 11 年間の結果と比較したものである。新入生の学生寮認知率は、平成 29 年度より低下していたが、6 年ぶりに 70% 台に上昇した。

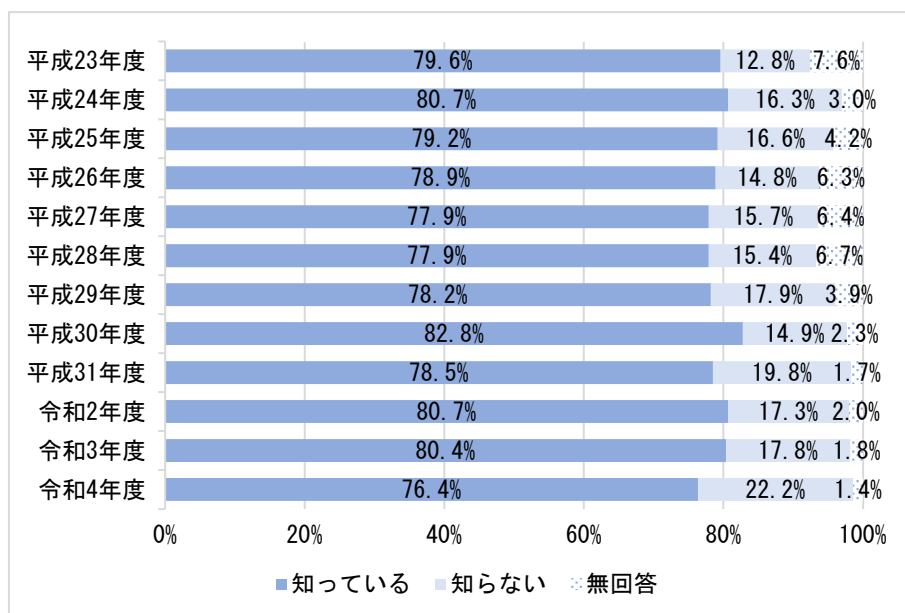


図表 5-3 新入生の学生寮の認知 過年度比較

## ② 保護者

保護者の奨学金等制度の認知・希望、学生寮の認知・希望について過去 11 年間の結果と比較したものを図表 6-1～6-4 に示す。

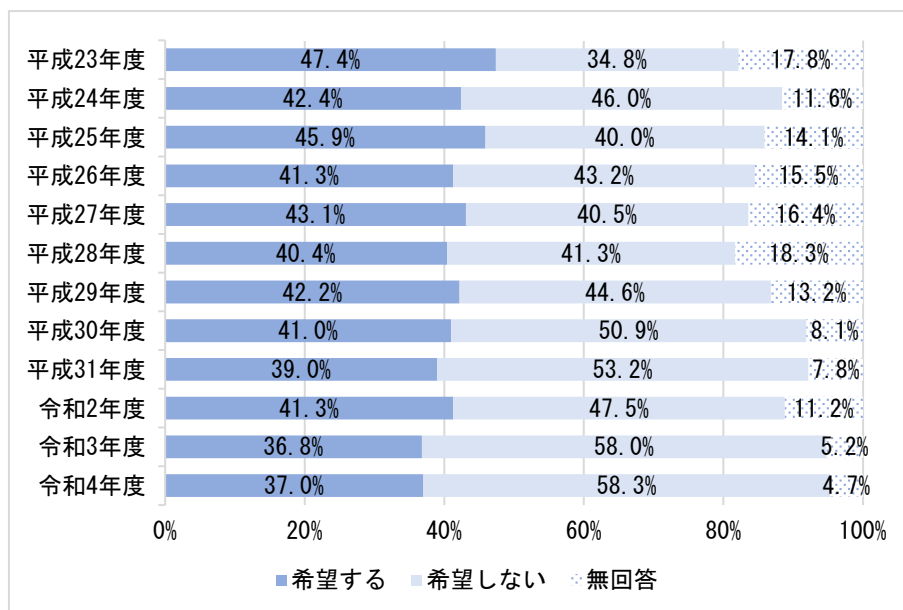
図表 6-1 は保護者の奨学金等制度の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の調査においては、「知っている」が 76.4% であり、大きな変動とはいえないが、全 12 年間の結果においては、最も低い割合を示している。



図表 6-1 保護者の奨学金等制度の認知 過年度比較

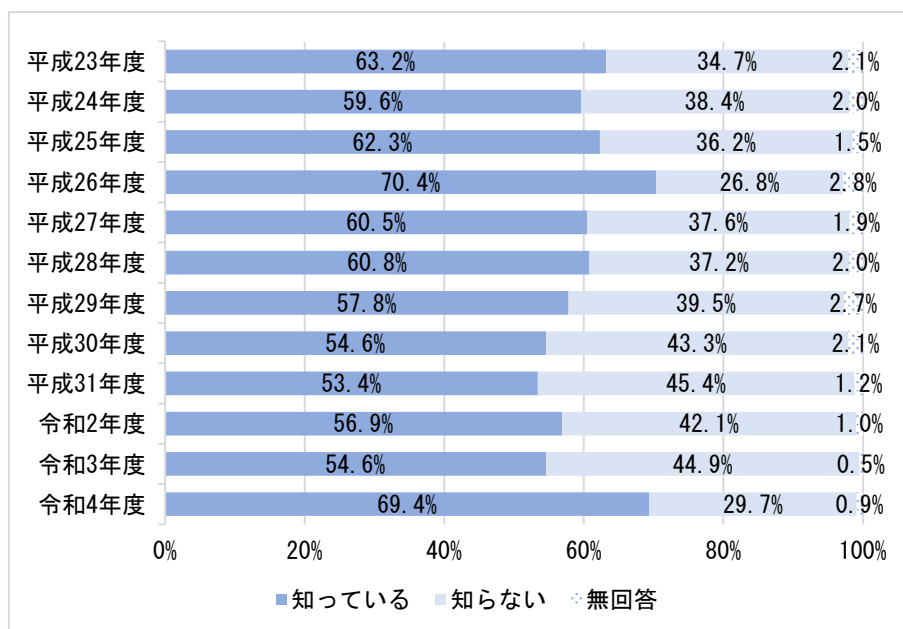


図表 6-2 は保護者の奨学金等制度の利用希望について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、「奨学金を希望しない」と回答した割合が 58.3%であり、過去の調査と比べて最も高い結果となった。奨学金の希望率は過去の調査の中で最も低い比率を示した昨年度の比率より僅かに上昇している。



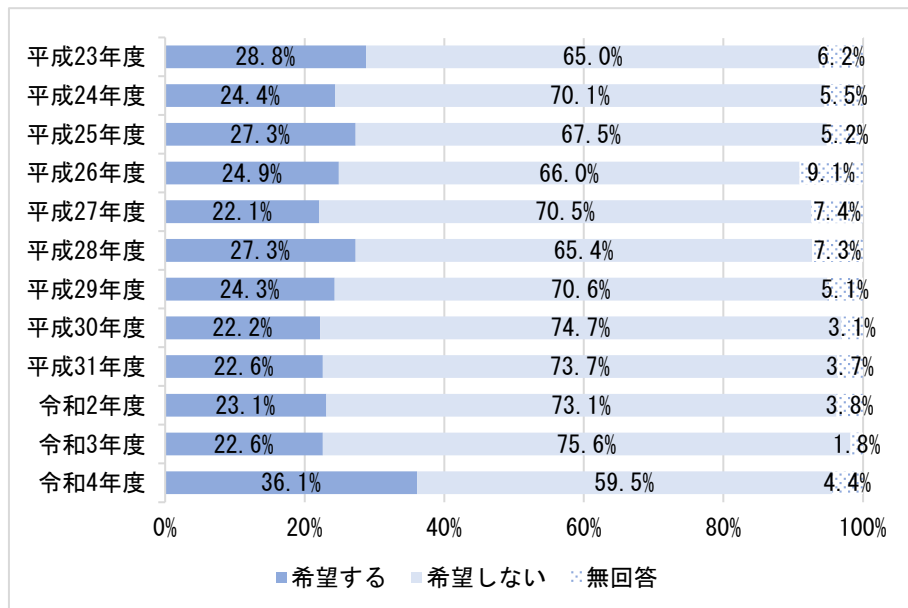
図表 6-2 保護者の奨学金等制度利用希望 過年度比較

図表 6-3 は保護者の学生寮の認知について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度の認知率は昨年度の 54.6%から 69.4%と急増し、全 12 年間で二番目に高い割合を示した。



図表 6-3 保護者の学生寮の認知 過年度比較

図表 6-4 は保護者の学生寮希望について過去 11 年間の結果と比較したものである。今年度は、学生寮への入寮を「希望する」と回答した割合が 36.1%で、過去最高を記録した。



図表 6-4 保護者の学生寮利用希望 過年度比較